

平成 29 年度 入試センター 自己点検評価報告書

- I. 入試センターの概要
- II. 学生募集広報
- III. 入学試験
- IV. 大学入試センター試験

平成 30 年 4 月 11 日版
富山国際大学 入試センター

I. 入試センターの概要

入試センターは、センター長1名、センター次長1名、参事2名、課長1名、主査1名、主事1名、各学部の教員による入試対策委員で構成し、以下の事業を展開している。

(1) 学生募集広報に関すること

本学の教育理念・教育目標を踏まえた各学部のアドミッションポリシー（入学者受入方針）を掲げ、学生募集活動を展開するとともに志願者確保、入学定員確保に取り組んでいる。

年間を通してWeb媒体、受験媒体、大学案内など各種学生募集広告業務、県内県外高校訪問による学生募集業務、業者主催進学相談会業務、本学主催進学説明会業務、オープンキャンパス業務、高校教員対象入試説明会業務、学校見学業務などを行っている。

(2) 入学試験に関すること

本学が実施する入学試験の運営に関する業務を行い、出願書類受付業務、入学試験実施業務、合否関係業務を行っている。

平成30年度入学試験では、推薦入試（指定校制、公募制）、AO入試、一般入試（前期、後期）、特別奨学生選抜入試（前期、後期）、大学入試センター試験利用型入試（前期、中期、後期）、特別入試、海外協定校留学生入試、3年次編入学（3年次編入学、海外協定校3年次編入学、秋季入学）を実施した。

(3) 大学入試センター試験に関すること

大学入試センター試験は、独立行政法人大学入試センターが毎年1月13日以降の最初の土曜日及び翌日の日曜日に実施する全国一斉に行う試験であり、大学入試センター試験を利用する大学が共同で実施している。本学も試験会場となっており、富山短期大学と共同で実施し、呉羽キャンパスで実施した。年間を通して準備を行い、試験の運営に関する業務を行っている。

2. 学生募集広報

1. 実績と現状

(1) 学生募集戦略

平成 20 年度戦略的・大学連携支援事業で実施した『富山県内の 6 大学・短大のステークホルダーを対象としたマーケティングリサーチ』報告会（平成 21 年 4 月 28 日富山大学）で、若年層に対して受験について意識する前から心理的に近い関係を構築し、困り込みが必要である旨の報告・指摘があったことを重視し、中長期広報戦略を計画・実行中である。

18 歳人口の減少期が再び始まる 2018 年問題を念頭に置き、高校 3 年生を対象とした短期的広報を最重点事業に置きながら、加えて保護者及び小・中学生までも対象としたイメージ戦略・ブランディングなど中長期的広報が必要である。

これを踏まえ平成 24 年度から実施している短期、中期、長期の計画による学生募集活動を展開した。

(2) 高校訪問

富山県内の高校・予備校を対象に、年間 7 回にわたり、学生募集広報活動を行った。

4 月からの前半は、教員対象入試説明会参加依頼や推薦入試出願依頼、オープンキャンパス参加依頼などをしながら県内高校の動向を調査・分析し、11 月の推薦入試の募集活動に取り組んだ。

12 月からの後半は、訪問校を絞り込み、一般入試や特別奨学生選抜入試、大学入試センター試験利用型入試の出願依頼及び動向を調査し、募集活動に取り組んだ。

教員による県内高校訪問は、33 校を対象に年 1 回 5 月に実施した。

県外の高校訪問は新潟県、石川県、福井県、岐阜県、長野県を対象として年 3 回実施した。

(3) 学生募集イベント

年間を通して 7 回の学生募集イベントを実施した。内訳は、主に推薦入試志願者をターゲットとした「春の進学説明会（4 月）」、「6 月の進学説明会（6 月）」、「オープンキャンパス I（7 月）・II（8 月）・III（10 月）」、「推薦入試直前説明会（10 月）」、一般入試・特別奨学生選抜入試・大学入試センター試験利用型入試の出願者をターゲットとした「一般入試・特別奨学生選抜入試直前説明会（12 月）」である。

地域向け広告を展開し、イベント毎に学年・地域などターゲットを絞って資料請求者等に DM を送るなど、参加者の動員を図った。

(4) 業者主催ガイダンス

平成 29 年度は、富山県内で開催されるガイダンス及び説明会を中心に参加すると共に、石川県、新潟県、長野県の説明会に参加した。

(5) 広告媒体

「受験生・保護者向け広告」、「高校教諭向け広告」、「地域・社会向け広告」に広報を区分し、広報展開した。

(6) 大学案内及び広報紙

大学案内 2018 を 5 月に発行し、オープンキャンパス、高校訪問、進学説明会、校内ガイダンス、学校見学、資料請求者発送等に利用し、積極的に大学の広報を行った

高校訪問時の進路指導部情報提供用として、学部毎の広報チラシを作成し、積極的に大学の広報を行った。

2. 課題

18 歳人口の減少が始まる 2018 年問題（富山県においては 2020 年から減少が始まる）に戦略的な対応が必要である。

Ⅲ. 入学試験

1. 実績と現状

平成30年度入学試験は、現代社会学部は英語国際キャリア専攻を新設、子ども育成学部は入学定員を80名から10名に変更しての入学試験実施であった。

大学全体では210名に対し、入学者数218名（入学定員充足率103.8%）と入学定員を確保することができた。

現代社会学部は、入学定員120名に対して入学者数127名（入学定員充足率105.8%）、子ども育成学部は、入学定員90名に対して入学者数91名（入学定員充足率101.1%）であった。

【表19】平成30年度 富山国際大学 入学試験

平成30年4月4日(水)現在(入学式確定数)

種別	種別	平成30年度						平成29年度								
		定員	志願者	受験者	合格者	入学者	歩留率	入学定員充足率	定員	志願者	受験者	合格者	入学者	歩留率	入学定員充足率	
推薦	指定校制	20	18	18	18	18	100.0%		20	16	16	16	16	100.0%		
	公募制(Ⅰ期)	一般型(専願)	10	15	15	12	12	100.0%		10	10	10	9	9	100.0%	
		一般型(併願)	5	5	5	5	1	20.0%		5	2	2	2	0	0.0%	
		随活動型(併願)	20	27	27	27	27	100.0%		20	15	15	15	15	100.0%	
	公募制(Ⅱ期)	一般型(専願)	若干名	4	4	4	4	100.0%		若干名	4	4	3	3	100.0%	
		随活動型(専願)	若干名	3	3	3	3	100.0%		若干名	1	1	1	1	100.0%	
	【小計】		55	72	72	69	65	94.0%		55	48	48	46	44	96.0%	
	A	AO入試(Ⅰ期)	5	3	3	3	3	100.0%		5	6	6	5	5	100.0%	
		【小計】	5	3	3	3	3	100.0%		5	6	6	5	5	100.0%	
	現代社会	一般入試(前期)	22	46	46	39	20	51.0%		22	50	50	46	30	65.0%	
特別奨学生選抜入試(前期)から一般入試(前期)合格					6	4	67.0%					2	1	50.0%		
第二志望一般入試(前期)合格					8	3	38.0%					4	3	75.0%		
一般入試(後期)		5	9	9	6	4	67.0%		5	7	7	4	4	100.0%		
特別奨学生選抜入試(後期)から一般入試(後期)合格					3	1	33.0%					1				
特別奨学生選抜入試(前期)		若干名	8	8	2	2	100.0%		若干名	5	5	3	2	67.0%		
特別奨学生選抜入試(後期)		若干名	5	5	2	1	50.0%		若干名	3	3	2	1	50.0%		
センター試験利用型(前期)		25	73	73	62	14	23.0%		25	58	58	46	4	9.0%		
第二志望センター試験利用型(前期)合格					8	0	0.0%					5	2	40.0%		
センター試験利用型(中期)		5	8	8	7	3	43.0%		5	3	3	3	1	33.0%		
第二志望センター試験利用型(中期)合格					1	0										
センター試験利用型(後期)		3	6	6	4	1	25.0%		3	5	5	4	2	50.0%		
外国人留学生(Ⅰ期)		若干名	1	1	1	1	100.0%		若干名	0	0	0	0			
日本語学校協定校外国人留学生 計	若干名	3	3	3	3	27.0%		若干名	1	1	1	1	100.0%			
【小計】		若干名	7	7	7	6	86.0%		若干名	13	13	10	9	90.0%		
【学部合計】		120	237	237	227	127	56.0%	105.8%	120	198	198	181	108	60.0%	90.0%	
子ども育成	指定校制	5	17	17	17	17	100.0%		5	12	12	12	12	100.0%		
	公募制	一般型(専願)	15	19	19	15	15	100.0%		10	18	18	16	16	100.0%	
		一般型(併願)	5	5	5	4	2	50.0%		5	5	5	4	4	100.0%	
		随活動型(併願)	若干名	2	2	1	1	100.0%		若干名	2	2	2	2	100.0%	
	市町村連携型	若干名	0	0	0	0			若干名	0	0	0	0			
	【小計】		25	43	43	37	35	95.0%		20	37	37	34	34	100.0%	
	一般入試(前期)	30	59	56	35	19	54.0%		27	77	77	53	36	68.0%		
	特別奨学生選抜入試(前期)から一般入試(前期)合格				18	10	56.0%					14	8	57.0%		
	一般入試(後期)	5	10	9	3	3	100.0%		5	8	7	3	2	67.0%		
	特別奨学生選抜入試(後期)から一般入試(後期)合格				4	2	50.0%					1				
特別奨学生選抜入試(前期)	若干名	30	30	11	5	45.0%		若干名	30	30	16	10	63.0%			
特別奨学生選抜入試(後期)	若干名	7	7	2	2	100.0%		若干名	2	2	1	1	100.0%			
センター試験利用型(前期)	26	91	91	63	13	21.0%		24	97	97	67	20	30.0%			
センター試験利用型(中期)	2	5	5	2	0	0.0%		2	7	7	3	3	100.0%			
【小計】		65	204	200	140	56	40.0%		60	227	226	160	81	51.0%		
社会人	若干名	0	0	0	0			若干名	1	1	1	1	100.0%			
【小計】		若干名	0	0	0	0		若干名	1	1	1	1	100.0%			
【学部合計】		90	247	243	177	91	51.0%	101.1%	80	265	264	195	116	59.0%	145.0%	
【総計】		210	484	480	404	218	54.0%	103.8%	200	463	462	376	224	60.0%	112.0%	

【三年次 編入学試験】

学部	種別	平成30年度						平成29年度							
		定員	志願者	受験者	合格者	入学者	歩留率	入学定員充足率	定員	志願者	受験者	合格者	入学者	歩留率	入学定員充足率
現代社会	編入学	5	一般公募制	2	2	2	2	100.0%	5	4	4	4	4	3	75.0%
	一般公募制(富山短期大学)		0					1		1	1	0	0.0%		
	一般公募制(外国人留学生)		0					0		0	0	0			
	協定校(2+2)		3	3	1	1	100.0%	3		3	2	2	100.0%		
	秋季入試 協定校(2+2)									18	17	8	7	88.0%	
【学部合計】		5	5	5	3	3	100.0%	60.0%	5	26	25	15	12	80.0%	240.0%
子ども育成	編入学	5	一般公募制	1	1	1	1	100.0%	5	1	1	1	1	100.0%	
	一般公募制(富山短期大学)		3	3	3	3	100.0%	3		3	3	3	100.0%		
【学部合計】		5	4	4	4	4	100.0%	80.0%	5	4	4	4	4	100.0%	80.0%
【総計】		10	9	9	7	7	100.0%	70.0%	10	30	29	19	16	84.0%	160.0%

4. 大学入試センター試験

1. 実績と現状

大学入試センター試験は、富山国際大学と富山短期大学が共同で実施しており、富山国際大学試験場として270名の受験生を受け入れている。呉羽キャンパス試験場で5年目の実施となった。

試験当日の公共交通機関について、JRについては西日本旅客鉄道富山地域鉄道部、路線バス及び臨時バスの運行については、富山地方鉄道自動車部運行管理課に協力を依頼した。

除雪について、富山県土木部道路課、富山県富山土木センター施設管理課、富山市役所建設部道路河川管理課に県道及び市道の除雪の協力を依頼するとともに、呉羽キャンパスの冬期除雪を委託している近藤建設株式会社にキャンパス内の除雪を依頼した。

試験場の警備については、富山西警察署（交通課、警備課）に協力を依頼した。

呉羽キャンパスのある願海寺・野々上地区の住民の方には、事前に自治会会長を通じて呉羽キャンパスで大学入試センター試験を実施する旨を伝え、試験当日の受験生送迎に係る車の渋滞に理解を求めた。

試験実施前には、試験監督者説明会（H29.12.27（水））、事務職員説明会（H30.1.10（水）-11（木））、リスニング演習（H30.1.4（木））を行った。

2. 課題

試験前日、試験当日に校内の除雪、試験終了後の送迎車によるキャンパス周辺の渋滞など、近隣住民に理解を求めるなどの事前調整が必要である。

試験監督者及び事務職員に事前説明会等を実施しているが、業務内容の周知徹底が必要である。

試験監督者は、監督要領を熟読し、不備のないよう試験を運営しなければならない。受験生に安心して試験を受けられるようにしなければならない。

また、センター試験業務は、年間を通して膨大な業務があるが、全体を把握している職員は少なく、引き続き業務に精通した職員の育成を進めていかなければならない。